

島根県立  
古代出雲歴史博物館  
NEWS

2011.DEC vol.20



CONTENTS

- 2・3 特集 古事記編纂1300年
- 4 特集展 備前焼
- 5 学芸員通信/歴博からのお知らせ
- 6 博物館だより/まいぶんセンター通信
- 7 古代文化センターだより/神話博しまね
- 8 れきはくごよみ/パスポートのお知らせ/お客様の声から

This is the BIZEN!!

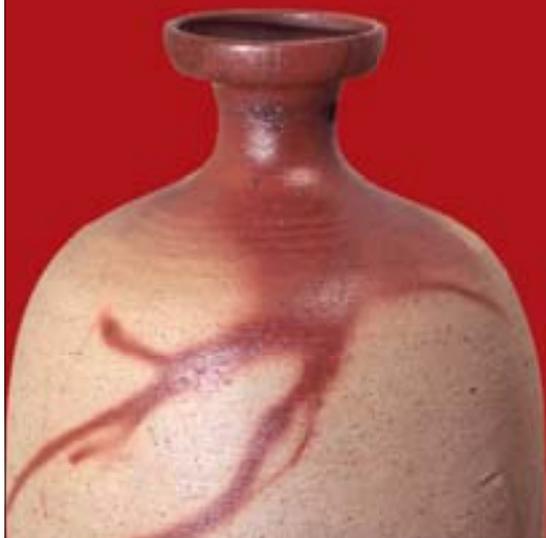


島根・岡山文化交流事業

# 備前焼

## 土と炎の芸術

2011.12.28.WED - 2012.2.26.SUN



特集展  
備前焼

▷4P

大晦日・正月  
イベント

▷8P

## 古事記編纂

神々の国しまねプロジェクト

古代出雲歴史博物館での  
展覧会と県外巡回展の予定

学芸部長 足立克己

神話のふるさと「島根」推進事業に伴い、現在県内各地で神々の国しまねプロジェクトが進行しています。このプロジェクトは、平成24年が日本最古の歴史書である『古事記』が編纂されてから1300年の節目の年にあたり、翌平成25年に出雲大社の平成の大遷宮が執り行われるのを機に、特色ある島根県の歴史文化や今も残る雄大な自然など、県内各地のすぐれた観光資源を活用して島根県の存在感を全国にアピールしていくものです。殊に平成24年7月21日～11月11日には、出雲大社周辺を主会場に、島根県内各地を訪ね歩き、地域の魅力を体感するイベント「神話博しまね」が開催され、当館駐車場にも、コンセプト映像館（仮）やしまね魅力発信ステージなどが設営される予定です。期間中の7月21日から10月8日には当館特別展示室で、神々の国しまね実行委員会が主催する写真展「植田正治、上田正昭が歩いた神々のふるさと（仮）」も開催されます。

当館においても昨年度からこのプロジェクトの一環として、企画展「神々のすがた 古代から水木しげるまで」（平成22年10月～11月）、企画展「古代出雲の壮大なる交流 一神々の国を往来した人と文物」（平成23年3月～5月）、特集展「音曲の神さま 美保神社奉納鳴物」（5月～7月）を順次開催してきました。

今後、開館5周年にあたる来年春には、出雲神話が生まれる背景となった古代出雲の歴史文化の基層をなしている弥生時代に焦点を当てた展覧会、企画展「弥生青銅器に魅せられた人々 その製作技術と祭祀の世界」（平成24年3月16日～5月16日）を開催します。そして平成24年度には、京都国立博物館と東京国立博物館を会場に、それぞれの博物館と共催して古事記1300年・出雲大社大遷宮「大出雲展」（平成24年7月28日～9月9日）と同じく特別展「出雲 一聖地の至宝」（平成24年10月10日～11月25日）を開催する予定です。この展覧会では、出雲大社をはじめとする出雲の古社、そしてかかわりの深い古寺の宝物と、出雲の重要遺跡から出土した遺物などを紹介し、古代・中世の出雲人がはぐくんだ神と仏への祈りのかたちを展望します。また、両展覧会の会期中、京都、東京のそれぞれの地で、記紀神話や古代出雲文化の特質に迫るシンポジウムを開催する予定です。

さらに平成25年には当館において、出雲大社とその遷宮の歴史を紹介する特別展「平成の大遷宮 出雲大社展（仮）」（4月～6月）と、離島隠岐に伝えられてきた文化財を紹介する特集展「隠岐島の歴史文化（仮）」（冬期）を開催します。

日本の神話の主要な舞台のひとつとなった出雲、その出雲の地になぜ壮大な神殿を造営する必要があったのか。また、旧暦10月（神無月）になぜ出雲に神々が参集するという意識が生まれ、今なおそれにかかわる祭祀が執り行われているのか。今回の一連の展覧会で、多くの人々を魅了する島根の歴史文化の魅力の原点に迫りたいと思います。どうぞご期待ください。



# 1300年

## 『古事記』入門

専門学芸員 森田 喜久男

「青丹よし 奈良の都は咲く花の 匂うが如く いま盛りなり」と詠われた奈良の都、平城京。そこへ都が遷されたのは和銅3（710）年。その2年後に元明天皇のもとに上・中・下3巻の巻物仕立ての書物が奉られました。これが我が国、最古の歴史書とされる『古事記』です。『古事記』は、壬申の乱に勝利して飛鳥の地に都を定め、律令国家建設の基礎を固めた天武天皇の命令により稗田阿礼がさまざまな神話や伝承を暗誦して語ったものを太安万侶が漢文の形で文章にして出来上がった書物です。

3巻の巻物であると書きましたが、上巻は神話が書かれた神代巻、中巻・下巻には神武天皇から推古天皇までの代ごとに天皇の系譜や物語、歌謡などを載せています。律令国家が成立した当初、天皇を始めとする皇族や貴族達は、自分達の先祖が輝かしい歴史を持っていたのだということを確認し、天皇を頂点として結束する必要があります。『古事記』とは律令国家を主導した支配者層が一つにまとまるための史書だったのです。

これに対して、養老4（720）年に舎人親王によって奏上された『日本書紀』は、外国に対して、「我が国にもこんなに素晴らしい歴史があるのだ」ということをアピールした史書です。そのため、隙を見せてはならない。チェックとダメツメを重ねてできた史書であるために、一見すると無味乾燥な文体に思えます。『日本書紀』は、その題名のごとく「日本」の歴史を記した政府による官撰の正史です。以後、このような正史が平安時代まで5つ編纂され、『日本書紀』と併せて六国史と称されています。

話を『古事記』に戻しましょう。すでに述べたように『古事記』の上巻は神話にあてられています。神話の舞台は高天原と日向（宮崎県）、そして出雲です。このため、『古事記』の神話の3分の1は出雲を舞台とした神話だとよく言われます。その内容はイザナミの死とイザナキの黄泉国訪問、スサノヲのヤマタノヲロチ退治、オオクニヌシの国作りと国譲りなどで、日本神話の中でもドラマティックな部分を占めています。厳密に言うと著名なイナバノシロウサギのお話は、出雲ではなく因幡（鳥取県）です。あんなに「出雲を強調し過ぎるとかえって本質を見失う。そこで専門家は「出雲神話」という言葉を使わずに「出雲系神話」という言葉を使います。

ただしオオクニヌシが高天原の神々に国譲りを行った舞台は出雲です。なぜ、出雲が国譲りの舞台とされたのか。いろいろな説がありますが、私個人としては、ヤマト王権から見て出雲は「辺境」であったが、そんな出雲が日本海域（古代では「北ッ海」）の十字路として各地と交流を展開しており、ヤマト王権にとってとっても気になる存在だったのではと考えています。また、出雲はヤマト王権にとって「新墾の地」、フロンティアでした。その事が神話の舞台とされた大きな要因ではないかと思えます。

ところで、神話の中に秘められた史実を探るという事も面白いのですが、神話そのものが発しているメッセージに注目すると現代に生きる私たちにもハットさせられる事があります。たとえばスサノヲは、なぜ高天原を追放されたのか。イタズラが過ぎたからではありません。機織りの女神を殺したからです。それも生命の生まれ出る場所を損傷させる形で…。ここから、『古事記』の神話が生命の尊厳を訴えている事がわかるのです。これは、多分、稗田阿礼や太安万侶が創作したストーリーではないでしょう。はるか遠い昔から語り部が伝えてきた事が、『古事記』の神話の中に形を変えて採録されたと見るべきなのです。

このように『古事記』の神話の元になる原神話を復元すること。これが、当館の学芸員であると同時に島根県の神話学専門職員である私に与えられたミッションだと思っています。





# 備前焼

—土と炎の芸術—

〈会期〉2011年12月28日(水) ▶ 2012年2月26日(日)

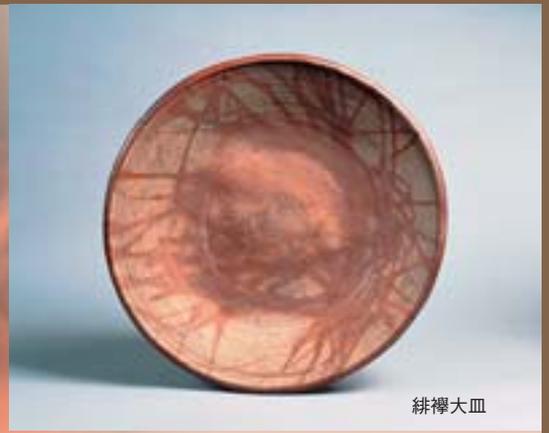
島根県立古代出雲歴史博物館と岡山県立博物館は、平成21年度から文化交流事業を実施しています。本年度はその最終年度にあたり、当館では「備前焼—土と炎の芸術—」として、岡山県立博物館が所蔵する数多くの備前焼の優れた作品をはじめ、重要無形文化財保持者の作品や、島根県内で発掘された備前焼も合わせて展示します。

備前焼は六古窯の一つで、釉薬を用いず粘土を高温で焼き締めただけの素朴な陶器でありながら、器の表面に様々な景色が現れる焼物です。

今回は、備前焼が誕生し、日常雑器として日本各地で広く利用された鎌倉時代から室町時代の作品や、豊臣秀吉などの大名や茶人に好まれる茶陶として興隆した桃山時代の作品を中心に、細工物など技巧的な作品が焼かれるようになる江戸時代から明治の作品も展示します。また、昭和以降に認定された5人の重要無形文化財保持者（いわゆる人間国宝）の作品も展示します。今回は国指定重要文化財2点を含む100点以上の優品が一堂に並ぶ展覧会となります。

現在の備前焼は、数百人の陶芸作家が日々制作活動を行う日本でも有数の焼物として親しまれています。

この展覧会で現代に続く備前焼900年の歴史で培われた伝統と技、芸術性にふれていただきたいと思います。



緋襷大皿



肩衝茶入 銘「不動」

## 特集展 関連企画

### 特別講演会

#### 備前焼【その伝統と創造】

■1月15日(日)13:30~15:00

■伊勢崎 淳氏(備前焼陶芸家 人間国宝)

【場所】古代出雲歴史博物館 講義室

【参加費】無料 【定員】100名

【申込み】電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームにて受付。定員となり次第、締切とさせていただきます。

### 講座 備前焼の歴史と島根県で出土する備前焼

(仮題)

■2月19日(日)13:30~15:30

■石井 啓氏

(備前市教育委員会 生涯学習課文化係長)

西尾克己氏(島根県古代文化センター長)

【場所】古代出雲歴史博物館 講義室

【参加費】無料 【定員】100名

【申込み】電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームにて受付。定員となり次第、締切とさせていただきます。

スペシャル ※常設展観覧料もしくはパスポートが必要です。

ギャラリートーク

岡山県立博物館の学芸員による特別解説です。

■1月14日(土)13:30~

ギャラリートーク

※常設展観覧料もしくはパスポートが必要です。

当館学芸員による展示解説です。

■1月21日(土)・28日(土)、2月11日(土)・18日(土)

いずれも11:00~/14:00~(1日2回)

ワークショップ

■備前焼にチャレンジ 第1弾

干支のグッズをつくろう

1月22日(日)13:00~15:00

【参加費】1,000円 【定員】24名

■備前焼にチャレンジ 第2弾

器をつくろう&電動ろくろ体験

1月29日(日)・2月5日(日)いずれも10:00~15:00

【参加費】1,000円 【定員】18名

【場所】古代出雲歴史博物館 体験工房

【申込み】電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームにて受付。定員となり次第、締切とさせていただきます。



備前角花生 伊勢崎 淳 作



国指定重要文化財 四耳大壺

# 出雲の青銅器文化を顕微鏡で検証する。

主任学芸員 増田 浩太

今回は荒神谷遺跡出土の「銅矛」を手がかりに、古代出雲の青銅器文化を考えてみましょう。私たちは3年間、銅矛を顕微鏡で観察するという、地味な調査を続けてきました。青銅器は溶かした青銅を鑄型に流し込んで作りますが、鑄型から外したあと、バリ落としや表面研磨など、幾つもの工程を経て仕上げます。銅矛の表面を顕微鏡で観察すると、こうした仕上げの様子が分かります。特に7本の銅矛に施された研ぎ分けは秀逸で、部分的に研磨方向を変えて、矢羽根状の文様を浮き出しています。ノートパソコンの天板など、金属製品にみられる「ヘアライン仕上げ」のようなものです。肉眼ではなかなか見えないほどで、驚くべき繊細な仕事です。

次に、研ぎ分けについて別の視点から見てみましょう。青銅器は空気に触れるだけで徐々に錆びていきます。新しい10円玉が茶色く輝きを失っていくのと同じです。輝きを失った場合は、再度磨いたに違いありません。実際、磨きすぎて文様が消えかかっている銅鐸や、ちびた銅戈などの出土例も知られています。荒神谷銅矛は九州で製作され、出雲に持ち込まれた可能性が高いとされていますから、職人は九州におり、おそらく出雲にはいません。銅矛が錆びたり、汚れても、あの繊細な研磨のできる職人がいないのです。つまり2000年を経ていまだ残る研ぎ分けは、これらの銅矛が完成後さほど長くは使われず、再度磨かれることもなく埋められたことを示しているのかもしれません。



銅矛を顕微鏡でのぞく

古代の出雲は、時に「青銅器のクニ」と呼ばれます。荒神谷・加茂岩倉の時代、出雲には驚くべき数の青銅器がありました。しかし、荒神谷銅矛例にみるように、それが何百年間も続いたわけではなさそうです。「大量青銅器の時代」は案外短かったのかもしれません。平成24年3月から始まる企画展では、各地を代表する青銅器を展示します。地域事情にあわせて、様々なバリエーションを見せる青銅器とその祭祀にふれ、出雲の青銅器文化をあらためて考える機会になればと考えています。

## [歴博からのお知らせ]

### 平泉丁銀コレクションを取得しました

文禄石州丁銀 ▶

この度、島根県教育委員会では、貨幣コレクターの平泉氏より、石見銀山と関係が深いと考えられる古丁銀9点を取得しました。古丁銀とは江戸時代に貨幣制度が統一される以前に全国各地で製造された丁銀のことを言います。

9点の中でも、「文禄石州丁銀」は丁銀で唯一「石州」と刻印されたもので、石見国の石見銀山遺跡で産出された銀で造られた丁銀だと考えられています。その他に、えびす様やだいきく様が刻印されたものもあります。全国でも有数の古丁銀コレクションであり、今後多くの方々に見ていただく機会を設けていきます。



# 「見立絵」を楽しむ

専門学芸員 岡 宏三

私たちになじみ深い福德の神々・七福神には、意外な性格があります。たとえば毘沙門天と弁才天、大黒天は元来仏教を護持する神（天部）であり、布袋は中国の唐末ないし元代の坊さんで正体は弥勒菩薩、寿老人は寿星（南極老人星）の、福祿寿は寿老人の発展型で、春節に祀る三星（福星、祿星、寿星）の化身といわれ、いずれも中国で信仰されてきた神々。残る恵比須さんだけは日本で出現した神様ではあるものの、海の彼方の世界（エビス）からの来訪神という性格があります。大黒さん、恵比須さんが、神代の大国主命と蛭子神（または事代主命）と団体であるという信仰は、平安時代以降に浸透していきました。

また17世紀末までは、毘沙門天ではなく多聞天、寿老人の代わりに吉祥天や狸々（無類の酒好きで、福をもたらすという伝説の猿）をあてることもあり、今のような組み合わせが確立したのは18世紀中頃以降からでした。

「七福神」とは、現代人の理屈で考えれば、仏教、道教、神信仰がごっちゃになった奇々怪々な組み合わせです。しかし別の眼でみれば、東アジアの人々が長年にわたって富貴・長寿を切に願った末に出現し、「慈悲深く、正直であれ」など、しばしばわかりやすい徳目で我々をなぐさめ、はげまし、身近で親しく見守ってくださる神々だともいえます。

さてここに紹介する錦絵、今の私たちにはただの美人画にしか見えないのですが、幕末の人なら文字が読めなくても「こりゃあ寿老人の「見立て」だな」とつぶやいたのでした。

手に持つのは折鶴。そのころ寿老人といえは、鶴を従え、経巻を結びつけた杖を持ち、唐服を着て頭巾をかぶった老人の姿が典型的なイメージでした。このように、古典や名所など著名なものを、全く異なったものを用いてなぞらえた絵を「見立絵」といいます。

「常設展 出雲大社と神々の祭り」コーナーでは、新春のミニ展示として七福神の見立絵をご紹介します。ウイットが効いた江戸の遊び心をお楽しみください。

[展示期間：2011年12月21日(水)～2012年2月20日(月)]



歌川豊国(三代)  
「七福ノ内 寿楼の梅里」  
安政2年(1855)

## いにしえ倶楽部

## 『神話の釣りにチャレンジ!』開催

島根県埋蔵文化財調査センターでは、埋蔵文化財により親しんでもらうため「いにしえ倶楽部」と称する古代体験イベントを毎年数回開催しています。今年度の第1回目については前号で紹介したとおりですが、10月2日(日)には『神話の釣りにチャレンジ!』と題して、松江市鹿島町の佐太公民館を会場に、鹿角で古代釣り針を製作し、実際に釣ってみる親子体験イベントを開催しました。



古代釣り針でみごと  
セイゴをゲット!

最初に講師から古代の釣りや漁業の話聞き、古代釣り針の製作にチャレンジしました。鹿角は思ったより硬くて子供たちにはちょっと難しかったようですが、お父さんやお母さんの手を借りながら自分だけの素敵な釣り針を作っていました。

その次にはよいよ佐太川でマイ釣り針を使っての釣りに挑戦です。主催者としてはこのコーナーが一番心配で、2度にわたる下見（釣行?）を実施し、魚がいることを確認したうえ本番に望みました。前日に雨が降り水温が下がった

こともあって心配していましたが、皆さんセイゴやハゼを釣り上げ、あちこちで歓声が上がっていました。

最後はお待ちかねの試食時間です。最初に講師から古代の塩づくりの話聞いたのち、古代製塩実験で作った藻塩を使ってセイゴの塩焼きとハゼの天ぷら（これは現代料理ですが…）に挑戦しました。釣りたての新鮮な魚とミネラルたっぷりの藻塩を使った料理ということでとても美味しく、参加者の方には大変好評でした。

いにしえ倶楽部では、これからも皆さんが古代に親しみを持ってもらってワクワクするような企画を考えていきたいと思っております。ぜひお楽しみに!



鹿角を使って  
古代釣り針づくりに挑戦



セイゴの藻塩焼に挑戦

# 出雲尼子氏の強大化と中央政界の変動

テーマ研究 「尼子氏の特質と興亡史に関する比較研究」から

古代文化センター 中野賢治

全国的にも名高い出雲国の戦国大名・尼子氏は、16世紀の前半から半ばにかけて、尼子経久とその孫の晴久の時代に急速に強大化しました。しかし晴久の没後、義久の時代には、毛利氏によって滅ぼされてしまいます。古代文化センターでは、そうした尼子氏の興亡について、尼子氏と中国地方の覇を競った周防国の大内氏や安芸国の毛利氏と対比させながら、文献史学と考古学の両面からアプローチするという研究をすすめています。今回はその研究成果のなかから、尼子経久が出雲を拠点として勢力を拡大した背景についてご紹介します。



月山と尼子経久銅像

尼子氏はもともと「バサラ大名」佐々木道誉<sup>どうよ</sup>で有名な近江国の佐々木氏の出身で、同じ佐々木一族である京極氏の家臣でした。京極氏は一族で近江・出雲・隠岐などの国々の守護を兼ね、室町幕府の要職である侍所<sup>さむらいどころ</sup>の長官も務めるほどの有力な守護大名でした。しかし、15世紀後半、応仁・文明の乱にはじまる幕府の内部抗争と連動するように、京極氏では後継者問題を原因とする内紛が発生します。その結果、京極氏は近江を拠点とする一派と出雲を拠点とする一派とに分かれていきました。そのなかで出雲の守護代となって台頭したのが尼子氏です。尼子氏は守護所（守護の国内支配拠点）であった富田を本拠地とし、経久の代には美保関・塩冶郷・横田荘など出雲国内の要所を掌握して、一国規模の大名権力として成長していきます。

ちょうどその頃、16世紀前半の室町幕府では、足利将軍家から実権を奪った管領細川氏が、これまた後継者問題から細川高国派と細川澄元・晴元派とに分裂し、それぞれに将軍候補を擁立しながら、激しい政治抗争を繰り返していました。この抗争は単に京都とその周辺だけではなく、大内氏や山名氏など、各地の有力守護大名を巻き込んで全国的に対立構造を生み出していきました。この対立構造のなかで、尼子経久は細川高国と手を結びます。たとえば、経久の次男で新宮党の首領として知られる尼子国久の「国」の字は、細川高国から偏諱<sup>へんき</sup>（名前の一字）として与えられたものとも考えられます。こうして経久は、高国派の有力大名として、晴元派に属する大内氏や山名氏らと争いつつ、石見・安芸・伯耆・因幡・備中・美作・播磨など、近隣諸国への遠征を相次いで行ったのです。

このように、足利将軍家や管領細川氏、有力守護大名の京極氏・大内氏・山名氏など、室町幕府の中樞を占めていた諸氏の政治的動向と尼子氏の勢力拡大が非常に密接に連動している、ということがわかってきました。しかしそうした中央政界の変動をチャンスとして利用し、勢力を拡大することができた経久個人の力量や人脈、あるいは出雲という地域との関わり方などについても目を向けなければなりません。今後の大きな課題です。

## [神話博しまね]

### 神話博しまね

JAPAN MYTH EXPO

〈会期〉

2012年7月21日(土)～11月11日(日) (114日間)

古代出雲歴史博物館が特設会場になります。

神話映像館／しまね魅力発信ステージ／出雲大社周辺まち歩き・定時ガイド

総合案内(コンシェルジュ)／グルメ&おみやげ／ふれあい広場

詳しくは、<http://www.shinwahaku.jp>

# 企画展

## スケジュール 2012



2012年3月16日(金) ▶ 5月16日(水)

古代出雲歴史博物館 開館5周年記念

### 企画展 「青銅器に魅せられた人々 その製作技術と祭祀の世界」



2012年6月1日(金) ▶ 7月8日(日)

世界遺産登録  
5周年記念

特集展

### 「石見銀山展」(仮)



## 2011 → 2012 往く年来る年イベント



2011年12月31日(土)

大晦日 年越しイベント 神戸川太鼓 23:45~

2012年  
1月1日(日)~3日(火)

今年はプラザで「れきはく新年まつり」 10:00~16:00 **参加費無料**

●プラザ縁起餅つき(午前・午後各1回) ●凧あげ ●羽根つき ●番内試着体験・記念写真

## パスポート会員の皆様へ

前号でもご案内させていただきましたパスポート会員様の特典につきまして、下記の内容となります。

継続

- 企画展、常設展が会員ご本人様に限り1年間何度でもご覧いただけます。
- 来館ポイントサービス(Wポイント日の増加・新年まつり1~3日・開館記念日3月10日)。
- 他館優待サービス。

新規

- 歴博ニュース、ほっとレタスを発行ごとに送付。
- 博物館ご縁サービス同伴者割引(常設展2割引・企画展1割引)。  
※お持ちの観覧割引券は有効です。
- 会員様限定イベントご招待。

今後、追加で会員の皆様がより便利で、楽しめる特典を検討しておりますので、ご期待ください。

## お客様の声から

当館では、来訪される様々な方からのアンケート、アテンダント等への要望をもとに、より気持ちよく利用ができるよう、検討・改善を図っています。

4月以降にいただいた『声』のうち、主なものについて回答を掲載させていただきます。(アンケート等でいただいたご要望については、一部簡略化して掲載しています。)



**神迎祭の時は出雲大社周辺の  
駐車場がすぐに満車になるので、  
歴博の駐車場を使いたい**

例年、お正月や神迎祭などの大規模な行事がある場合は、出雲大社周辺が大渋滞となるため、お客様が安心して車を止められるように、駐車場を開放しています。開放時間などをインターネット等で確認の上、ご利用ください。

神在月は、例年特別ミニ展示もやっていますので、ぜひ館内もご覧ください。



**神話回廊の小型モニターの音が  
聞こえづらいので何とかしてほしい**

神話回廊には5台のモニターがあり、それぞれスピーカーで音声が発せられるようになっています。神話シアターが閉鎖中には、ここで映像を見られる方が増え、音声が交錯してよく聞こえないとの意見を受けました。そのため、ヘッドホンを使うことで音声が聞きやすくなるよう改善を図りました。

今後も、来館される様々な方に親しまれる博物館を目指して、意見をお聞きしたいと考えています。ホールに設置しているアンケートや館内のアテンダントを通して、気がつかれたことをご知らせいただければ幸いです。

発行/平成23年12月



島根県立古代出雲歴史博物館  
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350  
URL : <http://www.izm.ed.jp> E-mail : [contact@izm.ed.jp](mailto:contact@izm.ed.jp)  
開館時間 9:00~18:00(11月~2月は、9:00~17:00)



マスコットキャラクター  
雲太くん



マスコットキャラクター  
出雲ちゃん